

長期経過を観察した脳アミロイドアンギオパチーの臨床病理像[<sup>11</sup>C]BF227PET所見を含めて  
 研究分担者：池田修一（信州大学脳神経内科、リウマチ・膠原病内科）

## CAA関連脳出血予防における副腎皮質ステロイドの治療効果

症例	年齢/性別 診断基準*	脳血管障害	治療	治療効果
1	65/M G3	再発性皮質下出血 (左前頭葉)	PLS50mg/dayで内服開始 その後漸減し、PSL10mg/day で継続中	ステロイド治療開始後、 12か月間の再出血ないが、 ステロイド中止後に再出血 ステロイド再開後は14か月間 再出血なし
2	68/F G3	再発性皮質下出血 (右前頭葉、左前頭 葉)	DEX16mg/day投与開始 その後漸減し PSL30mg/dayに変更漸減し、 PSL8mg/dayで継続中	ステロイド治療開始後、再出血 なし
3	76/F G2	再発性皮質下出血 (右前頭葉、右側頭 葉、左側頭葉)	PLS30mg/dayで内服開始 その後漸減、6か月後に中止	ステロイド治療開始7日目に再 出血したが、12か月後に左小 脳半球の小出血を認めた
4	87/F G1	再発性皮質下出血 (両側後頭葉、 左頭頂葉)	DEX12mg/day投与開始 その後漸減し PSL30mg/dayに変更漸減し、 PSL5mg/dayで継続	ステロイド治療開始後、 再出血はないが、9か月後に 肺炎にて死亡

1. BF227PETにより、非侵襲的にCAA患者のAβ アミロイドの蓄積を経時的に観察することが可能になった。
2. CAA関連脳出血の再発予防法としてステロイド療法は、検討例は少数であるが、副腎皮質ステロイド療法が有効な印象を得られた。
3. 副腎皮質ステロイドの作用機序として、①血腫関連浮腫の軽減により、アミロイド沈着による血管脆弱性を有する血管に機械的応力の減少と、②Aβ 関連血管炎の抑制、③アミロイド沈着自体の軽減が考えられる。